

人はたがやす 水牛はたがやす 稲は音もなく育つ

落選町長候補大勝利をかたる	
石井新一 前田俊彦 鎌田慧 高橋悠治	2
大阪の路上表現	11
太陽の市場をつくる	上田 要 14
ドウラ・トゥラの勉強	山元清多 19
水牛楽団のページ	25
人物朝鮮史高銀	26
流れ去った悲哀―過ぎし時代の歌謡(五)	高銀 28

落選町長候補大勝利をかたる

石井新二
前田俊彦
鎌田 慧
高橋悠治

芝山町長選開票結果

(投票率八一・九三%)

石井 新二 一八〇四票

真行寺 一郎 三一六五票

投票日 六月七日

有権者数 六一二五



前田 きみはほんとうによくやったもんなあ。一日に平均三百戸くらいまわったか。
石井 平均そうはまわんねけどな。
前田 芝山町で全戸数はいくらあるか。
石井 二千いくつだったべな。
前田 そうすると、平均三百戸いっくらんでもあらかたまわったこ

とになるよな。

石井 大体の地域はな。まわんねえところもあるけど。

鎌田 千八百という票は見通しよりもいくら多い多かったわけ？

石井 見通していてもだれの見通しか。おもう人によってちがうから。

高橋 本人は当選するつもりだったんだからその見通しよりはすくないよ。

石井 いや、見通しなんてねえもんな、おれにとつては。おれは別に石井新二が町長になろうとおもってやってるわけじゃねえしよ。

結果的に町長になったって、それはかまわなかったけどよ。選挙っていうのはよ、今の空港政策に対する住民の意志表示なわけだからよ。それを石井新二に代表させるか、当選すれば代表させるわけだけども、当選しないから、いわば意志表示の段階なわけだよ。だから一票でもよけいとつたにこしたことはないけれども、見通しているのはだれももっていないかったんじゃねえだろうかなあ。

前田 いやいや、そりゃあ、あつちよるよ。第一、むこうはせいぜい五百票とりゃ充分、というようなことがある。

石井 ああ、そういう意味ではな。公団のよみとしては五百から六百票だな。むこうがそういうもんで、反対同盟がいっしょけんめ運動やってよ、五、六百から二、三百ふえて七百から八百のあいだと。

最初はこのちがわもその程度だとおもってやったわけだったけども、選挙はじまって、反対同盟全体が選挙にむかっつてのぼりつめるって

いうか、結末できたから。そもそもこの選挙は、二期工事反対の声を投票ってかたちであらわすことがひとつと、いまひとつは反対同

盟をこの選挙によって結束させるっていう二つの目的があったわけ

で、そういう意味では二つが双方とも、ものすごく成功におわたったなあ。だから当選できなくてパンザイやっつてるのは日本中でこだけだつべという人がいるけど、ほんとに落選して大勝利ってさかい

でるところはほかには……

前田 まったくないとはいえんかもしれんがな。

鎌田 投票するほうもせまられて、真行寺よりもやっぱり石井新二

だつていう自分の決意みたいなものがあつたらうしね。

石井 それもあつたらうし、不満もあつたらうし、ま、期待もあつ

たらうし、だからおれらがこの選挙戦のなかで主張してきたことに

賛同する人はもつと多いじゃねえか。

前田 多い、多い。

石井 多いけどもそれが票になつてあらわれるかっていうと、けし

てそうではないよ。人間の気持はいろいろで、たとえば石井新二は

若いとか、あんなのにまかせられないとか、いいこと言ってるけど、

言ってることがほんとに守られつかわかんねえとか。

前田 守るじやろうから、守つたらおおごとというところがあるわけ

よ。

石井 そういう面もあるよな。

前田 反対同盟が今までやつとるようなことは、そりゃありつぱじ

やけれども、りつぱなことをやつてもらたらえらいことになつち

やう。しかしおれが応援演説つちゆうか、辻説法やつたときの印象

もよかつたよ。途中でジュースや菓子差入れてくれた人がおつ

石井 選挙がおわってから札状を配つてあるいたんだけど、半日は配れるはずの札状が、一日でも配り終わらなかったわけ。どういうことかかっていうと、選挙結果について町民が話をしかけてくつから出られないわけよ。ごめんください、どうもありがとうございまして、の一言で通れるはずが、よう、あんちゃん、今回はよかったなあとか、がんばったなあとかよ、もうすこしだったなあというはなしが出て……

鎌田 町民がいちばんびつくりしたのかもかもしれないな。

石井 びつくりしたのは町民と、あとは公団・政府じゃねえかな。

高橋 投票率はかなりたかいのかな。

石井 予想した投票率よりはたかい。

前田 七十パーセント台じゃろう。今までの例がそうじゃから。

石井 ほんとに激戦になれば九十パーセントこえるけども、今回はまあ七十パーセント台だろうと予想されていたんだ。大詰にきて意外と関心がたかまってきた、まあ双方の関心だけでもな、こつちへ入れる人の関心もたかまるし、むこうへ入れる人の関心もたかまるし、それで十パーセントくらいはあがつてんじゃねえかな。

鎌田 公団のほうではなにかがなびつた形跡があるのかな。

石井 それは具体的にはねえべ。むこうは運動としてはそんなにやつていなくて、部落をまとめるとかの、いわゆる守りの選挙だから。むこうがおれらとおなじ立場で票とり選挙をやるなら金をつかわなきゃなんなくて、そうなればおれらはこんなに票とれなかったつべとはおもうな。

前田 公団が直接はでてこないけれども「千葉日報」が農業振興策

は順調にいってるとか騒音対策委員会がひらかれてるとかの記事のせたな。

石井 千葉日報つかって青年行動隊を批判して真行寺体制をバックアップしたというようなことはいくつもあつたよな。

鎌田 千葉日報は友納がつくつたらしいね。むかしの「千葉新聞」がストライキでつぶれて、それを友納が後援した。

石井 友納の御用新聞というべ。

鎌田 そう、友納新聞ね。本人もおれの新聞だつて言ってるんだつてさ。

高橋 何軒もまわつて印象にのこつたことは。

石井 人間は接してはなせばわからない人はいねえなつていう気があつて、おれが毎日オルグやつて一軒一軒あるいたら、みんなおれのいうとおりになつちやうじゃねえかなつて、やつてるうちにおもつてよ、一軒でもよけいまわろうというふうにおもつたよ。ただ説得するには時間かかるしよ、よけいまるには時間かかるし、総合的な長期的スケジュールを組まないと、選挙期間中だけで勝負しべえとおもつたではひじょうにむずかしい。公団や政府は苦情が出てないといつてるけどもその実芝山町民の大半が今の状況に不満を抱いてるつてことがあるから、おれらのいうことをすぐ理解してくれて、だけどもおれらといつしよに起ちあがつてやるべえという気はやつぱりねえんだよな。それがない。反対同盟にまかせて、なんとかやつてもらおうという期待は多いんだけども。

鎌田 千八百票のまわりにかなりの不満票があるのがわかつたつてことだろうね。

前田 そりやはじめからわかつちよるけどな。みんな長いものには巻かれろよ、な。

石井 いま自民党の芝山の人たちでさえも空港はこれ以上はよくないし心の中ではおもつてるんだよな。おれらもよくないとおもつてる、やつらもよくないとおもつてるから同じかというところ、こりや大ちがいで、おれらはよくないとおもつたら、そのことを真向からけんかできるけど、空港をつくらうとするのがでかい犬とすれば、やつらは犬のおっぱいにすがつてる一匹一匹の子犬なわけだから、チビ犬だから。芝山町そのものが犬コ口だからよ、親に歯向うことができねえんだよな。心の中では二期工事できないにこしたことはない。今ある空港をぶつこわせと、そこまできかねえにしてもよ、これ以上芝山がわるくなつたじゃあしよねえというところで、彼らもいろんな手だてをつくして、京成ひくどとか、考古博物館たてるとかいつてるけどもき。町民の上になつた計画じゃねえわけだよな。

前田 京成の延長について、のばしてもらいたいという声がかかなりあるのかなあ。

石井 ないな。もし仮にのばしたところで乗り手がないというのみんなの認識で、逆にいえば京成を利用して乗りましようという人が芝山にはない。ちゆうことだよな。京成ものびず、二期工事もやらすで終結しつちやうんじゃねえだろうかとおもうんだよな。反対同盟が敷地内ふくめて降参しちやええ、むこうも二期工事やらざるをえなくなるからやるかもしんねえけども、ほんとにやる気ならできるところからやつちやつていいだもんな。公団はいっぱい買取

してあつて敷地内で残つてんのは五百町歩のうちの三千六百町歩だからな。四百六十四町歩はもう公団の手中にあるだからよ、工事すめるならかんたんにできるはずだつてよ。

鎌田 依然として関係はにらみあいの状態か。町民には地域振興政策のバラ色のイメージはかたりはいつてるのかな。

石井 町としてはバラ色化してるけども、だれもバラ色なんておもつてる人はいねえじゃねえかな。だから千八百なんて数がでてくる。この千八百票はおそらく三千人にも匹敵するとおもうんだよな、内容的には。今まで自民党にいられた人がよ、それをやめて、左翼の最左翼、いわゆる過激派で、経歴に逮捕歴、それも七回の逮捕歴を大いばりでのせてる人に投票するわけだから、こりやえらいことなわけよ。自民党は前回の選挙で四千四百票とつたのが、今回三千百しかはいらなかつたわけだから、彼らの勢力からいけば千三百つたり減つてる。実際には八年間たつてるけども、かわりだしたのは三年前からだつてもんな、こんなはずじゃなかつたというところから。

前田 開港以後じゃろうな。

石井 うん、開港以後。

鎌田 いちばんは騒音かな、やつぱり。

石井 騒音だつてな。予想しえなかつた騒音と、人口がどんどん減つてますます過疎化になつてくつていうな。

前田 それと、空港ができればなにかいいことがあるというが、一戸一戸にはない。

石井 それだな。騒音はがまんできる人だつて見返りがないわけだ。

個人的な利益なんてほとんどないしよ。打っちゃってたって道はよくなるのが世の中の常だよな。年を追うごとに道はよくなるし、いい建物ができるってのはごくあたりまえのことだから。

高橋 過疎化ってのはどのくらいの感じですか？

石井 いまは横ばい状態だともうけど、かつては一万人以上いたからな。いまは八千二、三百か。

鎌田 空港ってふしぎだね。ほかの現場をまわるとき、危険だとかこわいとかいうの一応あるよ、でもみんなメリットはあったついでうよね、経済的なメリットがあったとかさ。ところがここはなんにもないんだもんね。空港ってのはかなりへんなもんだね。

石井 金ももってるよ。めいわく料と称して芝山だつて二億近い金ももってるんだけど、それではむくわれねえわけだよな、みんな。

前田 毎年もらいよるか。

石井 毎年もらうよ。もらったつてよ、空港のための諸設備に対する費用なんかもあるわけだから。

高橋 ああ、町負担だね。

石井 そうそう。町がただポコンともらうつつうんじゃなくて、そのなかには町が勝手に使える金もあるし、用途のきまつてる金だつてふくまれてる。で、個人にはなかなかいきわたらねえしよ。

鎌田 空港のはなしがきたとき、新二さんはいくつだったの。

石井 おれ十八歳。

鎌田 そのときすぐ青行つくつたんだつて？

石井 そのときは青年行動隊つていうのなかつたな。最初は青年同

盟つてのがあつて、おれは途中からはいつて、共産党とわかれるころに青年行動隊になつたんだ。

鎌田 最初からいつてなかつたのは、三里塚じゃなかつたから？

石井 おれはひとといつしよになにかをやるつていう趣味じゃないから。ひとがなにかをやっからおれもいつしよにやんねきやなんねえという感じじゃない。高等学校行つてるころは空港に賛成してたわけだから。ところがある日、おれが学校卒業してすぐ、三里塚に飛行場ができるつてことが内定したあとに、反対同盟の人がおらほうの部落へはなしをしにきた。そのはなしきいてコロツとかわつちやつて、こりゃあ反対しなきゃしようねえとおもつて、それでガバツと空港反対はじめたわけだから。なんちゅうかな、ひとがやるからやるとかよ、ひとといつしよにやるとかそういうかんがえはまったくなくてよ、だけどそのうちひとりの無力さにぶちあたつて、それでだんだん青年同盟にはいるようになって、地域でもそのころから若い衆をあつめてやるようになって、当時は十人くらいいたんだけど、ま、だんだん年を追うごとに反対同盟がくずれていくなかで、そういう人も、ひとりへり、ふたりへりしていつて、最終的にはゼロになつちやつた。で、青年行動隊になつてから、またあらたに組織をはじめて、今やつてる人らがいつしよになつた。

鎌田 いま青行の連中で、高校の同期生つているんでしよ。

石井 同級生は東峰の石井恒二で、まったく関係なく、ふたつの地域で別々にはじめたわけよ。当初はおたがい相手がやつてるつてことは知んなかつた。三里塚と芝山は、反対同盟でも組織が別だつたから。

前田 連合反対同盟やからな。

石井 連合になつてからいつしよになつたけども、まるつきり関係なくておれは芝山のほうでやつてたし。

鎌田 じゃあ、あ、おまえかつていう感じだったのか。

高橋 こんど町長選にでるのは自分で先にきめたわけ？ おれがでるつていうふうには。

石井 そこは……どうおもいますか、前田さんが見て。

前田 石井新二にしてみりゃあ、おれしかあるまいなという気があつたらうとおもうな。最初のうちは、でて大負けしたらめんどしいと。

鎌田 めんどしいつて九州弁じゃないの。

前田 ああ、みつともないと。

石井 みつともないですまないよ。

前田 そんな恥の上ぬりするよなことを、それでもあえてやろうというよなものは、新二ぐらいいしかおらんとかたよね。だれを町長にするというんでなくて、やはり反対同盟は町長選挙をやらにやならんということよね。そういうことをいうときに、頭の中にチラツとくるのは新二しかないよ。

高橋 最初から、かげはチラついてたわけだ。

前田 そりゃそうよ、おちつくところにおちついたんじやから。

石井 やるつてのはきのうきようはじまつたことじゃなくて、そもそも一年前の町会議員の選挙のころから、町長選挙やろうというはなしはでた。だから後悔するのは、そのころから地道に町民むけの運動、町民対策をしとけば、おそらく……おそらく一年間かけて

運動してればむこうよりこつちが票とつたじゃねえかとおもうよな。ピラにしたつてよ、いまは選挙にむけた内容というふうにしおもわれないおれらの運動のやりかたでは、いくらいのこと書いたつて、いくらいピラ配つたつて、選挙だつてのひとことでおわつちやつて、またどぶの中に捨てられるつちゅうことになるわけだつてよ。そうでなくて、地道に運動やつてきて、実際おれらの言つたことが実行にうつされてるつていうふうには町民がわかればよ、そりゃ町民はもつともつとかわつてきただろうし。

前田 去年の暮に、二期工事の是非についてアンケートとつたよな、七十二パーセントが二期工事反対に署名しちよる。

石井 それが実数だよ、ほんとにそうだよ。

前田 有権者の四分の三が反対じゃからね。それが票になつてごらんよ。当然票になるべき性質のものじゃもの。

鎌田 町長は別だつていうことか、若いしね。

前田 窪川町もそうじゃもんな。原発には反対じゃけども、町長選挙になるとまたかわつてくるつていうよなことがあるわけでしょう。
鎌田 こういう選挙によその地域の人がきてやつていのに対する反感はあるのかな。

石井 あるよ。学生がピラ配つたりしてつから、それに対する批判もかなり多いよ。

前田 わしなんかが応援演説すれば、あれはやつぱりよそものだとおもうじやろう。

石井 よそものなをいいうかなんて。

前田 けれどよそものというに、公団ほどのよそものがあるかい、

なあ。

高橋 去年暮にアンケートをくぼるっていうことはあつたけど、なかへはいつてはなしをしたのははじめてかな。

鎌田 アンケートのあいだから選挙のあいだまでに結局なにもなかつたっていうことだな。

石井 運動がまるつきりとだえてたから、信用できないわけだよな、町民にとつても。選挙のときだけしかきねえじゃねえかとか。

鎌田 ビラ配りってそうなんだよね。一カ月に一回ぐらいでも定期的に配ってるほうがいい。

前田 もうひとつなあ、あの風車がちゃんと立つちよれば、もう五百票ぐらいいは……

石井 あれは芝山町民とはあまり関係ねえからな、それでは票になんねえ。やっぱり、おれらが日常的にはたらきかけをしてよ、はたらきかけだけでなくて具体的に……。おれらのやつてる空港反対つてのはひじょうに抽象的だつてよ。空港反対つてことは具体的であるかもしねえけども、現実ばなれした具体性だから、いうなれば抽象的はなしなわけだ。それがもつと具体的に身近なもの、たとえばドブさらいだつていいから、それをやりつづけてきたほうが町民にとつてはとつつきいいよ。千八百の人以上にも、おれらが具体的に運動やつてけば、それに賛同してくれる人もでてくるだろうしよ。いうならば左翼とか右翼とかをこえたところで、超党派でもつて空港に反対していくうごきをうみだせなきゃなんねえ。ところが、いまおたがいに左翼とか右翼にわかれて、いわゆる保守党だとか革新だとかいうところすべての問題がすすんでいつちやうか

いことになるわけだよ。単なる批判団体でなくて政治団体だから。そりや、勝利、残念、大変という順序だな。おれは当選したら、殺されんじやないかとおもつてたよ、ほんとに。

前田 だれが殺したにしても、鈴木内閣が殺したとしかおもわんもんな。

石井 おれが町長やるとすれば、空港全面廃止はともかくとして、二期工事はやめろということ、町あげて毎日運輸省に行くようになつて。

前田 そりやあね、政治的な順序としては、議会に二期工事をさせないという決議をとることになるよ。そうすると議会は決議しないわけよ。決議しないと、今度は議会を解散ということになるよ。

石井 そんなことやらないよ。

前田 そりやしなくちゃいけない。そして選挙をする。それが順序というもんじゃ。

石井 おれはやらさないんだ、そういうのは。助役に町をまかせて、おれは公約実現のためにやるわけだ。

前田 だから、公約実現のためには、議会が足枷になるからな。

石井 議会が足枷になつたつて、町長がひとりて運輸省や公団にかけあいにいくぶんならかまわない。

鎌田 運輸省にさ、芝山町長室をつくるんだよ。

前田 仮に運輸省に行つても、運輸省は議会は議決しておりますかというはなしになるしな。

石井 町長からぜんぶ声を出さしてやつたつていいし、方法はいくらでもあるぞ。

ら、いい方向へすすまないだよ。保守は保守の意地で、おれればいいところもおれないでつづけるわけだ。今の芝山町長だつて保守でなかつたらよ、二期工事反対つて叫べるわけだ。ところが口がさけたつて二期工事反対ですとはいえない。そこんところをふりすてよ、地域党を結成してよ、芝山は独立するくらいいきおいでかんがえればできるわけけども、独立できねえだもの、親父と子犬の関係だからよ。だからおれらが反対同盟とかつていう線をこえて、あたらしい住民、とりわけ騒音下の人たちに対してはたらきかけをつづけると。過去それができなかったんだから、今回の選挙戦をひとつのパネにして、はたらきかけをおこしていけば、おれはこれからの闘いのなかでもすごい力になるとおもふよ。千八百の票がでただけでもたまげるんだから、その一部がうごきだしたつちゅうことになればさ、これはすぐ二千人の意味にもつながることだから。二十人うごいたつてえらいことだつて、これは。

鎌田 それがわかつたからバンザイしたんじやないの。

石井 そうだよ。前田さんが、千五百とつたら勝利、二千とつたら残念、と。

前田 当選したらどうなつとつた。

石井 バンバンザイ。

前田 それならいいが、大変だなあ。新二にはちと荷が重いつちゅうことになるわな。

石井 おそらく当選したら、逆に心配になつてくつとおもうんだよな、その荷の重さによ。今は棒でつづいてるだけですすんでるけど、八千人の芝山町民をしょつて国家とけんかするだから、こりやえら

前田 議会は納得せんで、町民大会をひらいていくとか、そういうことになるけどな。

石井 そうだよ、方法はあるよ。

鎌田 前田さん、むかし村長やつたころのことだんだんおもいだしてきてさ、ね。

前田 そりやあ、おれの村長経験がだいぶいまのはなしのなかにははいつちよるよ。

石井 さいわいにして当選しなかつたから苦勞せずすむけど。

高橋 でも東京でもいつてたよ、まかりまちがつて当選したら町はどうなるだろうつて。

鎌田 町は過激派の巣窟になるぞ。

石井 いいムードであつたことはたしかだよな。

鎌田 次の町長選までなにもしないつていうんじやまずいから、それをきこうか。

石井 町長選の必要は、もうないとおれはおもうな。おれはそもそも今回の選挙で勝つてるとはおもわなかつたから、ただせいっぱいやつて、町民の声をさ、ほんとにこの芝山のなかにかしてくつてを担わねりゃなんねえというふうにおもつたわけよ。いまの真行寺体制はおそらくもつと続くと。力量的に差があるし、おそらくおれは勝てないよ。ということになれば、真行寺をおした人はそれでいいかもしれないけども、真行寺ではダメだという人が芝山町民のなかにおそらく大勢あらわれると。そういう人たちのもうひとつの政治をつくんさきやなんねえわけだ。おれは町長にはならなかつた。その段階で、あたらしい芝山、ウラ芝山をさ、その政治をつ

くんなきやしようねえわけだよ。これは、だから四年先までまっつくださいというわけにはいかないよ、町民に対してよ。都会の選挙みたいなやつであればそれでもいいけども、今回の芝山の場合は空港問題をめぐって方針を提起した選挙なわけだつべよ。だからおれらが町長になったらやりますとか、町長になれなかつたからやれませんといいはなしではないわけだ、おれらのいつてることとはよ。日常的にやんねきやなんねえのが、この空港闘争の公約だから、それについては、勝とうと負けようやんねきやなんねえんだ。おれはこの芝山に二重権力構造をさ、二重政治構造をつくると。

鎌田 カゲの町長だな。

石井 そうです。

高橋 カゲの町長として信任されたわけだ、千八百四票でな。

石井 千八百四名にとつては町長なわけだ。要するにもうひとつの政治の。空港べつたりの町長は真行寺で、空港に対立する町長はおれなわけだよ。

高橋 夜の支配者。

石井 表千家、裏千家つちゆうけどもよ、オモテ芝山、ウラ芝山だよ。

前田 ウラの町長が新二つちゆうことになる、ちよつと誤解があるけどもな。そうじゃないんじや、人物中心にかんがえるわけじゃない。

石井 そりやそうだよ。おれだつて言ってるでしょうよ、石井新二を町長にしようとおもつて投票したんじゃないんだと。町民の声としてよ、たまたま書く人は石井新二しかいなかったから書いたし、

石井新二という名前で代弁してよ、町民の気持をわれわれの出したスローガンにたくしたわけだつべよ。
前田 だれを町長にというんじやないんだと。新二を男にしようとかなんとかいう選挙じゃないもんな。
鎌田 新二ははじめつから男だよ。
石井 はつきりいつて政策の選挙なわけだ。われわれのぶつた政策に町民が共鳴してきたつていうことだよ。

(6月14日三塚瓢箪亭にて)

大阪の路上表現

北加賀屋貧民窟の住人三人で、去年いろいろやった勤(労働)サ(イクル)協(議会)の路上表現について、話をします。

「野っばらバブ」は、最初土曜の昼やってたやんか。自分らがワアとやるけど、自己満足になってしまつて、みんなフンノとかいう感じでしか見ていってくれへんみたいのもいうてたけど、この間のは、陸橋おりたところで流れていくだけの場所じやなくて、何やいこの場所みたいなの、あつたでしょう?

第三ビルの場合はやな、公園みたいなかたちになつたから、人もこしかけたり、つかれてへたつてる人なんかおつたりしてね。それまでは、いかにも通路やろ? そういう場所ですつても、なかなか人にアピールすること

がすくないんやな。

買物袋もつたおつちゃんおばちゃんが、エレベーターあがつてくるわけやな。そんでずつとならんで、行儀よくすすんでいく。「野っばらバブ」やってたら、これも都会の文化なんかなあ、いう風な、見字いう感じで見て通るんよ。いつとき七十人位の人がおつたわな。五月の、ピアガーデンなんかひらく時期で、人もゆつくりあるいてるわけや。夕方六時半位からやつたしな。

ソーラン節おどりはじめたら、なんやなんやいう感じで見るわけやな。見るけど、なんや、おどつてるんか、ということ、すつとかえつてしまうことがおおいけどな。

ふつうは、町のまん中で、「野っばらバブ」

やいうて、わりあい強制されるように酒をのむとか、遊びの精神のわけやけど、やつば運動的にやつてたけど、こないだは、何とはなしに、酒買いにいこか、いうことになつて、のんだやんか?

そういう季節的なやりやすさがあるとおもうね。

プリバ盆踊りはどうやった?

踊り方は、炭坑節みたいな、四つのパターンのくりかえしやろ? 明快やから、ついてくるね。二十人位踊つたやろな。時間にして一回10分、15分を一回。踊る方は退屈せんよ、たのしいし。見る方は、何かへんな感じで見てたんとちゃう?

プリバ自体が大衆うけするわけや。ひざを

ついて生きるよりも、立つたままで死のうや
ないか、というあの歌いまわしが、ふつうの
おつきさんなんかにも、ごつうアピールするん
やで。釜ヶ崎でも、そうや、そうや、ええこ
というわ、にいちゃん、もう一回いうてくれ
なんてあるわけや。

それが、コントや運動的な歌をうたいだす
と、チラッチラツと、すくうなっていくん
やな。日音協や水牛楽団でうとうてるよう
歌だとな、何との高尚然として、ようわか
らんな、肌合ちやうなあ、いう感じだね。

歌謡曲っぽいものをつかひながら、かえ歌
で自分の主張する方が、よりしたたかなん、
ちやうかな？ メロデーに思想があるかな
いか、ようわからんけどな。

天王寺では、「反戦露天市」いうて、ミニコ
ミとか、古着売るとか、そのなかに反公害、
反戦、反原発のスローガンを、露天のおっち
やんの軒先といっしょにならべて、やるわけ
やな。それも春から夏、それから秋までしか
できへんけどね。さむうなつてくると、人間
の思考は萎縮するよう気がするね。
そのときは、タイの歌のテープをちいさい
カセットデッキにいれて、カラオケでやった
わけな。あれで、二、三本テープ売れたわけ

やろ？ 露天商人らしくやるとな、おっちゃん
が、めずらしいもの売ってんのやな、なん
て。

「雨をまつイネ」なんか、美空ひばり調に
うたうやろ。ウン、うまい、いう感じだな。

わたしらの方法としては、歌をもつてくる
のは、容易やねんな。今日のだしの切れた
ら、うたおうか、いう感じだな。歌い自身
が、雑踏のなかで声だすことをあんまりして
ないから、どうしても、こう芸術的になつて
まうのよ。技術が先行するわけや。たしかに
耳ざわりよく、きれいにうたえるけどな、歌
として、こつちへつたわつてくるものが希薄
なんやな。「クナリオンダ」なんか、マイク
つこうても、かぼそい声でな。

ちいさい歌集なんか、便利やけど、それによ
つかがつてるかぎり、相手とのわたりあいに
は、腰がくだけてまうねんな。

チンドン屋の身ぶりかつこうで、商店街を
ざつと通るでしょう。鳴物なしで、四人位で
あるいてると、あ、おにいちゃん、がんばつ
てよ、とかき、声がかかるわけやけど、口上
は、文字を見ないといわれへんようなのを、
いったわけ。

釜ヶ崎の「子供横丁」いうて、子供といつ

反原発ゲリラシアター

女グループ りり子

なにがなんでも原発に反対する女グループ
では、よくピラまきとゲリラシアター（街頭
寸劇）を組合せて、反原発を表現して宣伝す
る。

やり方は、簡単で、まずテーマを決めるの
に、一人一人おもいつくままに出していく。
テーマが決ると、実際に体を動かしなが
ら「走った方がエエ」「寝ころんだ方がエエ」
とか、手なおししていく。で、三分位で演じ
れる寸劇をこしらえる。それを歩行者天国や
公園でやって、見ている人達にピラを手渡す
のです。

*天王寺公園でやった時
（もし若狭湾に地震がおきたら、原子力発電
所は……）というテーマ。

まず、テレビのワクを持ったアナウンサー
が、「臨時ニュースです。今、福井の原発で
大事故が起りました。避難してください。や
がて大阪にも放射能が飛んできます」と伝え
る。
現地からの実況中継に切り変ると、サイレ
ンの音と共に、布に書いた原発の絵のうしろ
から、火花の煙りの放射能がモクモク。原発
が大事故をおこしたのです。
やがて、死の灰がテレビを見ている大阪の
市民たちにおそいかかる。消防署員は、マイ
クを手に「市民のみなさん、風上に逃げてく
ださい。放射能が近づいています」と叫びなが
ら走る。
市民は、まわりで、見ている通行人に向か
つて、「おねがい、子供を助けてちょうだい」
「どつちへ逃げればいいの」と叫び寄る。
市民は逃げまわり、もがき苦しみ死にたえ
る。

最後に、ドク口の面をつけた黒マントの死
の灰が、「死の灰は世界を支配する」とマン
トを広げおそろしいポーズを決める。で、み
んなが立ちあがって、見ている人達に原発の
恐しさを書いたピラを手渡す。
この時、みんな生まれてはじめて、見知ら

しよに運動会や子供会やったりするんやけど、
いかにも子供のために何かしてあげる、いう
たときに、子供はしらけてしまいうわけや。わ
たしらが光州の紙しばいをするとかき、ダン
ジリを禁止した西成警察のこというとかき、
それはおとなの姿勢を知らずことにはなるけ
ど、子供らがそれに何をこたえてくるか、な
いませにしてひきだせないかぎり、意味ない
ねんな。

この釜ヶ崎のなかで何があるんか、スライ
ドで見ようつていうたとき、子供はふつ
う、路上で倒れてる人なんか、ああいう人も
おるとしか見てなかつたものが、この人はは
たらいて、あぶれて、ねるとこないから、こ
うしてねてるんか、とか、あらたなおどろき
をもって、認識が変つていく、そういう迫力
はあつたわけや。

最初は、劇場をでて、事件を提示すること
が、路上表現の意味あい、挑発劇ばかり
だったんやけど、拒絶反応しひきおこさな
かった。最近、事件を提示するプラス事件
にかかわつてもらう、いうことがでてきた。
ひきこみながら挑発できる方法を、いまみん
ながもちよつて、かんがえてるところだと、
おもうのね。

ぬ人達の中で、やった。やる前まで、「はず
かしいなあ、できるやるか」つて言つてたの
が、やっているうちにダンダン、調子にのつ
て来て、熱演してた。

体を動かし、大声を出すのがこんなにも気
持がいいものだとは知らなかつた。一べんや
ると、次回からは、なれたもので、

*スリーマイル島原発事故のあと、原発事故
をテーマにした映画「チャイナシンドローム」
をやっている映画館前では、

集まつた者五人で大きく手をつなぎ、まん
かにもう一人が入る。これが原発。

「ピーピー原発、ピーピー原発」とはじめ
ゆつくり、だんだん早く言つていく。言うの
と同時に、体全体を左右に、小さくだんだん
大きくゆすつていく。

「ピーピー、ガチャン」原発事故がおこ
つたのです。

一せいに散つて、倒れる。他のピラまき係
が、すかさず、見ている人にピラをまくとい
つたものです。

ゲリラシアター、もじどおり、ゲリラ的に
あちこちで、気軽にやれたらおもしろいとお
もう。

太陽の市場をつくる

上田 要

「太陽の市場」への提案

1 在宅重度障害者とその家族の人たちが、日ごろ、どのような生活をしているかを知っている人はあまりいないのではないかと思われるので、それを写真展示するか、ちょっとした寸劇などで発表し、かつ、その場の人びとに感想をもとめるという構成。

2 演劇ワークショップに参加して、日ごろ言語障害などでコミユニケーションといわれるものには憶劫になりがちなわれわれも、どこまでまわりの人についていけるか、自己再発見の場としつつ、また、観客の人びとに言語障害とはどんなものなのかを理解してもらえる場としていく。

3 日常の生活動作といわれるものの数おおくを人手を借りてしなければならぬわれわれが、楽器をみずから演奏することで、いままでも自分にも気づかなかつた動きを見つけていくとともに、それ

にかかわってくれる人たちと、あらためて「機能とは？」ということを考えていく場としたい。

なぜ「太陽の市場」に参加するのか

みなさんは私たち在宅の重度障害者が、いまどのような生活をしているかをご存知でしょうか。

ひとくちに障害者といっても多種多様ですし、重い軽いの区別も厳密にはつけにくいといっても過言ではありませんが、すくなくとも本人だけでは日々の生活がなりたつていかないような障害をもっている人間は、重度の障害者だといつてもいいと思います。たとえば私は、いま三十二歳の男性であるにもかかわらず、朝起きることから夜の寝ることまで、自分ひとりできずとげられるということはごくわずかしかなく、生活のすべてにわたって七十歳をこえた両親

にたよっている状態です。もし両親のうちどちらかが病氣などで倒れたら、お風呂に入ることはあきらめなければなりません。

三十二歳の男性が年老いた両親に生きていくことすべてをたより、まかせていかなければならないというのは、世間の常識というものからみれば本当に異常だといえるでしょう。しかし現実にはその異常といえる生活をつづけようと、本人はもちろん、家族全員が相当の無理をしながら精一杯の日々を生活しているのです。施設などに



入れば家族の負担はかくなりますが、いまの状態ではよほどのことがないかぎり思いどおりには入れないのが事実です。

では現在あるような、いわゆる施設といわれるものをどしどしふやせば解決するのでしょうか。私たちはとにかくまずひとりの人間として生まれてきたのですから、当然、ひとりの人間として生きていきたいのです。

ひとりの人間として生きていくということは、どんな生き方をいうのでしょうか。いま自分がすんでいる地域の人たちと同じ権利と義務のすべてをわかちあつて生活していくことが、その基本ではないかと私は思います。完全なる地域社会（福祉社会）とは、いかなる住民であろうと、一人ひとりが問題なくそのような生活をしていけるような社会ではないでしょうか。

そのような観点から現在の施設といわれるものを見ると、けつして「権利と義務のわかちあい」といえるようなものではありません。そこにはただ与えられるだけの動物的に生きているといえる生活しかないのです。在宅重度障害者の仲間たちのおおくの人たちが施設入所を拒否し、たとえ入ったとしても、大部分の人たちは自分からこのんで入ったのではないといわれる現実、このあたりからきているのではないかと思われます。

地域の住民として家族に負担をかけないで生活していこうとすれば、行政側の協力はもちろんのこと、住民のみなさんの援助もある程度あがなければなりません。ということは、私たちのことをまなみなさんに理解していただかなければなりません。この「理解する」ということばは、けつして一方的な意味をもつものではないは

ずです。おたがいがおたがいを「知りあい」「わかりあい」「みとめあう」ことが成立して、はじめて完全に「理解しあえた」となるのではないのでしょうか。

おそらく大部分のみなさんが私たち重度障害者のこういった実態をご存知ないのと同じように、私たちもいわゆる「世間」というものを知らないのと同じように思います。これまでとかく重度といわれる障害者ほど、家族の庇護のもとに社会から隔離されつづけ、障害者自身もその異常さを書きかえていく努力をおこたったことなどが、世間知らずの障害者をつくってきた大きな要因の一つにあげられます。

世間知らずの私たちと私たちの実態を知らないみなさんとが、どうやって理解しあっていったらいいか、今回、私がこの「太陽の市場」に参加する意義をここにもとめていきたいと思えます。

「太陽の市場」を終えて

今回の「太陽の市場」にかかわってきたことで、私なりにいまでも感じているか、またなにを得たのかを、この場を借りてすこしのべさせてもらいたいと思います。

「太陽の市場」という名前がまだ産声をあげないまえの段階から、碓井さん、伊川さんたちのおさそいで実行委員会に顔をだしはじめたころは、正直いって、これからどんなことがはじまろうとしているのか、まったくといっていいほどわかっていませんでした。黒色テントという劇団が全国をまわりながら、つねづね感じていた公有

地の問題を根底にすえながら、世田谷ボランティア連絡協議会および黒色テントに日ごろ関係している団体や個人があつたって、あの広場でなにかをしようといわれても、そう急には浮かんできません。実行委員会にかかわってきた人たちは、おたがいどんな活動をしているのかわかってはいなかったし、私をふくめて数人の車椅子の障害者たちの生活ぶりを知ってもらい、障害者問題の一端でもわかってもらえればということと、黒色テント側からのワークショップをやりたいとの発案が私のなかでむすびついて、自分たちの日ごろの活動や生活ぶりを寸劇などで発表したらというような企画をだしたわけです。

とかく障害者は、これまでの社会的な隔離や差別などをみずからの手ではねかえそうということから、自分たちのかかえている問題をおぶつただけに終ってしまい、まわりの人たちの状況を知り、交流をはかり、そしてともに歩むといった姿勢に欠けるきらいがあつたと思います。自分とはまるで関係のない立場の世界に自分自身をおいてみれるという演劇のもつている特殊性を利用して、そういった独自の姿勢をすこしでも見なおしてみようという気持ちも、私のなかにはあつたのです。

「太陽の市場」という名前が生まれ、各団体からの企画もでて、おおよその態勢がととのえられていくなかで、私自身にはある程度のイメージはできたものの、「太陽の市場とはこれだ！」といえるものは見えていませんでした。そんななかでいよいよ本番を迎えたわけですが、第一日目の二十四日は雨にたたられ、二日目の三十日は風に吹かれ、いかにも自然とともに土の上でおこなわれた「これ

「太陽の市場」は五月二十二日から六月三日まで、東京・世田谷区にある羽根木公園すみっこの空地でひらかれた。この空地に黒色テントをはり、その内外でつぎのような催物がおこなわれた。

- 佐藤信作「夜と夜の夜」上演（黒色テント 68/71）
- 楽器をつくり音をだす（職工房）
- 食べることに生きることのケーキをつくる（自立の家を作る会）
- からだにあつた道具をつくる（おひさま工房）
- いまを撮る移動暗室（ムサビツングステンズ）
- ハナモゲラ・ゲーム（あめの会）
- 宝ものあげっこ会（世田谷自主保育グループ）
- 日替りせり市（自立の家を作る会）
- 演劇ワークショップ（68/71）
- 南インドの太陽神楽ヤクシャガリーナ上演

この市場は、羽根木公園周辺の地域の運動と密接なかわりをつくり、公有地で芝居をやりたいという黒色テントの申し入れに、世田谷区内で身障者運動をつづけている人びとが応ずるといふかたちではじまった。そして、どうせテントをはるのなら、もつといういろろなことができるのではないかという意見が双方からだされ、「太陽の市場」構想が生まれた。この構想に具体的な焦点をあえたのが上田要さん（在宅障害者問題研究会）の提案だったのである。

演劇ワークショップは黒色テントで四日間にわたってひらかれ、最終日の後半が上演にあてられた。

演劇をやっている人、やったことのない人、あわせて四十数人があつまり、まず四つの班にわかれた。からだに重度の障害がある人たちも参加者のひとりとして、各チームにバラバラにくわわった。チームごとに円陣をつくり、障害者は自分の生活、生いたち、いつも考えていることなどを語り、ほかの人びとはその話をきく。話の中共味がよくなり、それなれば、そのつどききなおす。

つぎにその話を別のチームと交換し、それをくりかえすうちに、それぞれの話がまじりあい、四つ、最終的には三つのストーリーができあがった。そこで最初のチームを解体し、あたらしく三つのチームに編成しなおした。この三チームが三つのストーリーを分担して上演するのである。障害者は家主、八百屋の主人、行人のアベックなどに扮し、ほかの人間たちが交互に障害者を演じることにした。

上演にさいしては冒頭、全員が仮面をつけてテントのなかに踊りこんでくるプロローグがつけてくわえられた。楽器も全員の手づくりで、全員が演奏する。あけはなしたテントのうちそとに七百人の観客があつた。上演がつづくうちにやがて日が暮れ、最後に、おなじ場所に南インドからやってきた農民劇団ヤクシャガリーナの一座が登場した。

上演がおわったあとで「障害者が健常者に介助してもらおうのではなく、われわれが健常者を介助するのだ」と、実行委員長の碓井英一さんが笑いながらいった。障害者がみずから解放することによって健常者（！）を解放するという意味なのだろう。この「太陽の市場」をひらくだけのために、実行委員会はおびただしい文書を区役所に提出し、その一つ一つにハンコをもらわなくてはならなかった。ふつうなら気持がなえて、どうでもいいやと思わせるほどの量だ。これらすべての文書のコピーをとりこんだ本が近日中につくられるはずである。ぜひ一覽を。

が太陽の市場か」と思わせたはじまりでした。『夜と夜の夜』の上演、外での催物、ワークシヨップ、そしてヤクシヤガーナという流れのなかで、途中多少の迂余曲折はあったものの、あまり大きなアクシデントもなく、ともかく無事に終わったわけですが、私にとつて「太陽の市場」はなんであったのか、なにがのこったのか、ここであらためて掘りおこしてみたいと思います。

こういった催物に個人という立場で参加したのははじめての経験であり、自主的に積極的にこういった活動にくわわっていきける自分を再発見することができた。

この東京という都会に車椅子で生活していると、土というものは縁遠くなりがちだが、間接的にはあるが、ひさしゆりに土の感触をあじわった。

ワークシヨップなどをつうじて、われわれ重度障害者もある程度、演劇活動といわれるものに参加できるという自信らしきものがめばえた。

わりあい広い場所、そんなにおおくない人たちが、いくにちも、けっこう長い時間接触できたことで、より広い人間関係ができた。

私自身のこれまでの演劇観というもの、黒色テントの人たちとの交流やワークシヨップに参加したことで、だいぶ変化させられた。

最初のころは公有地の問題といわれても、あまりピンとこない部分というものがあつたが、だんだんと切実さがわかつてきた。

文化とは？という問いにたいして、いままでは私自身のなかには

漠然としたものしかあつたが、いまは、自分の現在の生活をより以上に生きていると感じられるように自分自身で創造していくことだ、と、私なりに答えをだせるようになった。

以上が私自身が「太陽の市場」に参加して得られたものですが、もうすこし時間がたてばもつとちがつたものが見えてくるかもれません。最後に、今後「太陽の市場」をつづけていくなかで、私なりに気づいた点、こういったかたちになればという希望というべきものを、すこしのべさせておいてもらいます。

今回は全般的に私たち肢体障害者の問題をだしすぎたと思われるので、つぎに催すものからは、できるだけ広汎な人たちのことをとりあげていくべきだと思う。と同時に、催物にはなにかひとつテーマをきめてやったほうが、なにごとにもスムーズにいきやすいと思う。「太陽の市場」という名前の趣旨からも、なにをやるにしても、土がある場所ですべきである。このような意味からも公有地の問題をよりおおくの人たちに理解してもらうために、この運動をよりあげる必要があると思う。ワークシヨップをやる場合には、一人ひとりの機能をひきだすという意味で、たまにはまるで演劇に関係のない人に脚本などをかかして、それをみんなが演じるといったこともやってもいいのではないか。

以上が私なりの今後の「太陽の市場」にたいしての希望であり、また今回の反省点につながっていくことです。

ドウラ・トゥラの勉強

山元清多

ええと、タガログ語でドウラは劇、トゥラは詩のことなんだよね。だからたんに詩劇という意味なんだけど、日本でいう詩劇とはぜんぜんちがう。ドウラ・トゥラとはなにか。PETAによる定義は以下のとおり。PETA Aというのはマニラに本拠をおくフィリピン教育演劇協会という演劇運動組織だね。かれらの活動については、「水牛通信」にもなんどか記事がのっている。

——ドウラ・トゥラは即興的な詩劇の形態である。参加者は劇の設定やダイナミックな舞台イメージ、動き、音、音楽などを即興的につくり、それによって話を生活にむすびつける。流れと持続の基本的な枠組

みは、さまざまなかたで語られる集団的な詩である。詩はひとりの人間によって、あるいは群読によって、あるいは両方のしかたで語られる。

セットや小道具や衣裳は、場面を暗示する代表的なものをえらんでつかうことによつて、創造的かつ経済的に処理することができる。

ドウラ・トゥラは、テーマをどのようにあつかうかによつて、さまざまな詩的・劇的なかたちをとる。ドウラ・トゥラの骨組みは物語的である。朝から昼へ、昼から夜へとといった事件の自然な推移にしたがつて自由に展開される。物語の中心になる主要人物なしでも、イメージや歌や踊りなどを

とおして解釈をコチヨウして示すことによつて、雑誌風であることもできる。

詩の解釈にさいしての焦点は、いかにそのテーマを明析にいきいきしたものととして示すかにある。それによつて観客を考えさせ、行動へとうながすのだ。アイディアや感情の流れにひそむ論理性、伝統的なもの使用、飛躍、与えられた詩の構造にたいする感性などは、くつきりときわだたせて表現しなくてはならない。

ちよつとわかりにくい。要するに何人かの集団が自分たちの問題を即興的に詩にして、そこいらにころがってるモノをつかつて、その詩から即興的に劇をつくる方法——それが

ドウラ・トゥラなんだ。二、三年まえから、黒テントの役者たちがなごかフィリピンに行き、この方法をおそわつてきた。それと並行して、こちらでも「物語る演劇」という芝居のつくりかたを、この数年、いろいろなかたちでやりつづけてきた。その接点をつかまえたかと思つてフィリピンに行つてきたんだけどね。

ことしの四月十三日から五月二十九日まで、PETAが呼びかけて「アジア演劇フォーラム」というあつまりがあつた。昨年につづいて二度目なだけ、ある種の研修会だね。東南アジア各国を中心に、日本やインドから二十二人、若いソシアル・ワーカーや演劇の専門家があつまつて、マニラ市とケソン市のあいだにあるセント・ジョゼフ大学というところに合宿したんです。日本から参加したのには黒テントからぼくと俳優のハセ、それから労働者劇団テイデンのキョウコちゃん、川崎の「石の会」のヒロコちゃん。名字はね、ええとね、中川さんと小川さん。その四人。それから堀田正彦がPETA側の組織者というか指導員としてくわつた。

平均年齢は二〇代の前半くらいかな。ぼくだけ年齢がはなれてるんで、はじめはみんなだけ年輪がはなれてるんで、はじめはみんな

きまりどおりだろ。そうやってみんなが詩をつくつて、だれでも詩がかけるといふことを確認したところで午前がおわる。

午後は国別にわかれて、それぞれの国にある問題についての即興劇をつくる。ぼくたちは「山田太郎の一生」というのをやった。田舎の少年が都市にでてきて工場につとめ、女の子と知りあつて結婚する。やがて子供が生まれる。労働運動もやるけど、深入りはしない。成長した娘は商社員と結婚してバンコックかどこかへ行ってしまふ。そしてカミさんはガンで死ぬ。ひとりぼっちになった山田太郎も、やつと自分のものになったポロポロの建売住宅のなかで死んでいく——

そういう筋を二時間ぐらいでつくつて、練習を一時間ぐらいい。「時間がみじかすぎるよ」と抗議したけど、「民衆といつしよに演劇をつくるときは、いつも充分な時間があるとはかぎらない」とかいって、とりあわないんだ。上演はその夜。たいへん好評だった、複雑な内容をうまく表現したというんでね。ぼく

遠慮してたけど、こういう人間だからね、すぐにいつしよになつちやつた。毎日、朝九時から夜まで、かなりハードなスケジュールなんだ。こまかいプログラムをつくつて、一段階一段階、まどめの印刷物をタイプ騰写でだしていく。PETAの連中は本当によくやると思つた。

集会の目的というのはPETAの趣意書にもあるけど、人びとが自分を「沈黙の文化」からひっぱりだすための技術としてとらえ、その技術を共同のものにしようということだね。左派カトリックの運動をつうじて、パウロ・フレイレの教育論の影響がつよい。こないだの「水牛通信」にのつたアウグスト・ポアールの「被抑圧者の演劇学」——あの英訳本が一冊だけマニラの本屋にでいたんだけど、だれかを買われちやつたらしい。ぜひ読みたいといつていた。ああいう本は公然とは入つてこないんだ。ポアール自身とはかれがペルーからバリにいつたころ、むこうで接触したらしいね。

ドウラ・トゥラをやつたのはそのワークシヨップの一日、午前中の「詩はだれにでも書ける」という基礎訓練からはじまつた。

が「山田太郎の一生」をものごとたり、それにあわせてハセやキョウコちゃんやヒロコちゃん、いろんな人物に扮して即興劇をやる。日本人の生活を、食う、働く、買物をする、という三つの基本動作によつて、めまぐるしく、スラップスティックみたいに表現したり——そういうのがうまうまいつたみたいだ。

単数あるいは複数の語り手が筋をものごとたり、それにあわせて芝居をやる。その芝居がどんなに自由に飛躍していつても——リアリズムになつてもスラップスティックになつても、もつと抽象的なものになつても、それを語り手がひきうけて、基本的な筋をとおしていく。こちらにも「物語る演劇」の経験があるし、黒テントの「赤い教室」でもおなじようにして芝居をつくつてきたわけだから、ドウラ・トゥラの方法というのは呑みこみやすかつたね。いまアジアの演劇運動が共有できる方法があるとすれば、ドウラ・トゥラはその確実な基礎になると思つたな。

ところかね、ぼくたちの「アジア演劇フォーラム」とおなじ大学で、フィリピン各地の社会活動やマニラの高校生、子供たちとかが、いろんなワークシヨップをやつていた。そこではドウラ・トゥラをやつてないんだね。妙

はじめにモノに手で触れるゲームをやる。参加者が眼をつむつて、その手を案内者がひいて、室内のいろんなモノにさわらせる。案内者が「これは壁です」といつて壁にさわらせ、その感触をていねいにたしかめる。それから、やつぱり眼をつむつたまま円く坐つてると、いろんなモノがまわつてくる。文房具とか仮面とかオモチャとかね。その感触をたしかめてから眼をあいてそれを見て、つぎにまわしていくゲーム。つぎつぎに変なモノがまわつてくる。

それから詩をかく。それぞれに自分にしたしい日常的なモノをえらんで、それについての四行詩をかくのね。それにも方法がきまつてて、一行目はそのモノの形態的特徴、二行目はその機能、三行目はそれにまつわる自分の思い出、四行目はやや抽象的な想像と、そういうふう具体的にるところから抽象的なところまで、四行の文をつくれれば、それが詩だといふわけさ。ぼくは安全カミソリをえらんだ。英語だからね、ものすこくかんたんなのしかかけない。

大文字のT 銀色にかがやいてる
私はそのTで毎朝ヒゲをそる

にリアルな芝居ばかりなんだ。それで「なんでドウラ・トゥラをやらなの？」ときいてみたら、「もう五年もやつてきたんであきてきた」というんだね。それでちよつとした論争になつた。

たとえばPETAの人たちは、「リアリズムの即興」とか「表現主義の即興」といつた分類をしてた。それにたいして、せつかくのドウラ・トゥラをそういつた近代演劇的な範疇によつて分類する必要はないんじゃないか、というのがぼくたちの意見だった。リアリズムとか表現主義とかのコトバで規定することのできない、もつと古く、もつと新しい方法がドウラ・トゥラだと思つてつこく主張して、たしかにそうだ、俺たちのほうがまちがつていたようだ、ということになつた。

そのくせ、ドウラ・トゥラはどのようにしてはじまつたのか、そのあたりのことを聞くのを忘れちやつた。一九七〇年代のはじめ、反日デモのなかで街頭劇なんかがかんにおこなわれるようになって、そのやり方をPETAが洗練させたらしい。

ともかくも自分たちの役にたつ方法は、なんでも貪欲にとりいれていくというのがかれらのやりかたなんだね。それはこつちも同じ

ことだけだね。アメリカの行動心理学的な方法を取り入れるとか、仮面とか群読のやりかたとか、黒テントがたえた方法もどんでん吸収しているみたいだ。フィリピン国内に過ぎられていたPETAの視野を、アジア規模、第三世界の全体にまでひろげなければならぬと思うようになったのも、PETAのだからがアメリカで会ったある韓国の演劇人の助言によるものだったといってたな。

矛盾はあるよ。ほかの国の連中がつくったドウラ・トゥラでは、かならずといっていいほど日本の侵略があつかわれていた。なにしろドウラ・トゥラの起源が反日デモらしいんだから。

ただぼく個人としては解放された感じのほうがつよい。以前「水牛通信」でもかいたんだけど、ぼくは造船所を舞台にした芝居をかくことと思って、なにか大分県の佐伯造船にいった。だけど、労働を見ること、労働を聞くことによっては、労働者の芝居をかくことはできないのではないかと、なかなか先にすすめなかった。それがふつきたという気がする。ともかくも書いて、それを見てもらう。そのことによって関係をふかめていく。そのために演劇がつかえる、演劇はそういう

しようと努めてきた。

4 C I T A S Aは個人およびその個人の集団との関係を検討する芸術教育プログラムを通じて、それぞれの考え方を分かちあう方法の有効性を証明してきた。

この方式は、沈黙の文化にそまっている一人ひとりの人間を解放し、その創造的な可能性を実現させ、そのプロセスにおいて、成長のための可能性をときはなち、探究し、自覚させ、選択し、マスターし、応用するものである。それは一人ひとりの人間に生活のすばらしさを発見させる解放のプロセスである。

5 より人間的な生活の条件のための闘いのなかで、PETAは他の闘うアジアの人々との関係をつくりだす努力をつづける。

すでに日本の黒テントとは個人レベルでの話しあい、集団的な交流から上演まで、いくつかのレベルで相互に影響しあい、話しあう機会があった。また一九八〇年には、マレーシア・インド・インドネシア・タイ・日本の人々がPETAのサマー・ワークショップに参加した。一方、PETAの芸術家・教師のチームも、演劇活動を通してこの交流を続行するために、マレーシア・インドネシア・シンガポールにでかけていった。

ものなんだと思うようになった。それがぼくにとつてのドウラ・トゥラだったんだな。

ドウラ・トゥラとは関係ないけど、フィリピンで聞いたジョークをひとつ――

中国を訪問したイメルダ・マルコスは、毛沢東が国民によって父親のように慕われているのを見て、うらやましくなった。それでフィリピンに戻り、小学校教育を強化することにした。一年後、彼女はある小学校にでかけていって、子供たちに「あなたたちのお父さんはだれなの?」ときいた。

「マルコス大統領です」

「ではお母さんは?」

「イメルダ大統領夫人です」

彼女は相好をくずし、最後に「みんな将来はなにになりたいの?」とたずねた。子供たちはこたえた。

「みなし児です」

6 PETA・C I T A S Aが、いまアジア演劇フォーラムを開催するのは、この理論によってである。このフォーラムでは、アジアの人々が集まり、意見を交換し、討論し、演劇を通じて民衆のよりよい生活を確立していく一致団結した闘いを生みだすための方法について熟考し、分析し、まとめるのである。

目的

- 1 アジアの人々の交流のための会議を確立すること。
- 2 民衆と人的資源を啓発する努力によって、社会的に責任のあるアジア人の集団を確立すること。

細目

- 1 民衆の啓発に演劇芸術を使うことに関心をもつ、社会的に責任のある人々の集団を組織すること。
- 2 効果的な教授過程や方式を分かちあうこと。
- 3 第三世界の現実にかかわる劇団や人びとのあいだに継続的なプログラムをつくりだしていくこと。

アジア演劇会議への呼びかけ

フィリピン教育演劇協会

理論方針

1 国民文化に対するPETAの計画を現すためには、フィリピンの全体的な状況(社会的・政治的・文化的)と他の文化との関係を学ぶ必要がある。

われわれの植民地としての歴史はわれわれが自分自身を明らかにすることを困難にしてきた。それにひきつづいての文化と生活の汚染によってわれわれはより広いパースペクティブから状況を学ばなければならなくなった。

2 PETAは民衆とその生活状態にかかわっている演劇芸術家の集団である。また、植民地主義の歴史に汚染されてきた文化との闘いにもかかわっている集団である。

3 PETAの教育機関C I T A S Aの初期から、PETAはアジアの他の国々で同じような問題を抱え、生活条件に影響をおよぼす共通の問題に立ち向かっている人々と連帯

4 よりよい生活を獲得するために、文化面でのこの闘いをつづけるアジア教育者チームをつくること。

一九八一年アジア演劇会議

他の運動体の援助によって、今回のアジア会議には、フィリピン・マレーシア・シンガポール・インドネシア・日本からの参加者が予定されている。

- この会議は六週間で六つの段階がある。
- 1 段階 オリエンテーション。
 - 2 段階 総合美術ワークショップ。
 - 3 段階 文化交流週間。
 - 4 段階 プロダクション・フェイス。
 - 5 段階 アウトリサーチ・ワーク。
 - 6 段階 再評価と計画。

評価

アジア会議は、すべての人びとが各主催国の現実を実際に体験できるように、アジア各国の持ちまわりでつづけられるであろう。かならずしも夏季期間とはかぎらない。

例 81 フィリピン

82 マレーシア・シンガポール
 83 日本
 84 インドネシア
 85 ホンコン

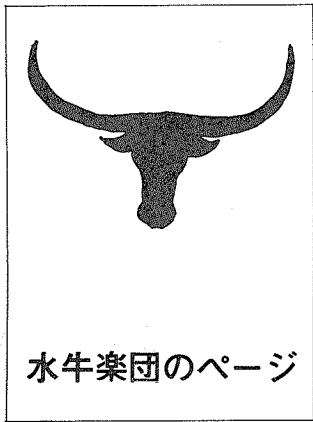
この会議は毎年ではなく、一年おきに開催されるかもしれない。
 この計画は、今年のアジア会議の再評価の期間中に討論され、企画されなければならない。

参加者の選考基準

- 1 時代の状況にかかわっている者。
- 2 民衆を教育し啓発するための手段としての演劇の可能性を理解している者。
- 3 演劇活動、地域社会活動の経験がある者。

O-A-Oキット

PETAは三つのプロセスを用いる。
 O オリエンテーション——民衆の見地からの社会・政治・経済・文化のオリエンテーション。
 A アーティストイック(芸術)——与えられた歴史・民衆がつくりあげた様式という制限の範囲内で、技術と熟練度をあらわす美



水牛楽団のページ

活動記録

五月二十九日(金) 刑法・少年法の改悪に反対する東京集会バラエティショー「もしかして、この自由が……」 久保講堂
 福山敦夫の新曲「番号いらん」をはじめ、林光「歩くうた」、ビオレータ・バラ「てがみ」、ジット・プミサク「星をたよりに」とすべてあたららしいレパートリー。

五月三十日(土) 淑徳大学新入生歓迎音楽フェスティバル 千葉教育会館
 学生たちのフォークの後、レパートリーから十曲。オーバーヘッド・プロジェクトで

的水準を反映した芸術様式。
 O オーガニゼーション(組織化)——人間としての権利を犠牲にすることなく、分析と客観性に対する個人の努力を通して、労働し、集団を形成していく過程。
 したがって、各国のグループは次のものを持ちよらねばならない。
 O——自国の社会・政治・経済・文化的背景

習うために学ぶ つかのために学べ

1981年度開講! 68/71黒色テント

赤い教室

〈赤い教室〉も今年で5年目をむかえました。わたしたちは運動のなかで獲得してきたたくさんものを私にするつもりはありません。だれにでも使える単純で有効なものとして、伝えています。それがこの〈赤い教室〉です。おおくの方々の参加をお待ちしています。

朝鮮の民衆文化

わたしたちが知らないまま無関心でいた朝鮮の民衆の芸術と文化は、実に多岐にわたる創造性といふべき魅力にあふれたものであります。この教室では、その朝鮮の民衆芸術と文化の全体を、ビデオや写真、楽譜、演劇の演本なども通じて学びます。予定されている講座は……

柳宗成「朝鮮の民衆芸術の概観」/朝鮮の民衆音楽の特性/朝鮮の民衆音楽/柳宗成の民衆音楽(実演)/東洋の思想/口伝の伝承/口伝の音楽/民衆音楽の伝承/民衆音楽の伝承/民衆音楽の伝承/民衆音楽の伝承

9月10日~12月17日 毎週木曜日
 入会料5000円 受講料15000円 月会費1500円

〈赤い教室〉では〈演劇のつくりかた〉の出張講座も行ってまいります。ご希望の方はお問い合わせください。

68/71作業場
 東京都港区中村町1-9(中)176 電話03(826)4021

景と討論のための課題。
 A——自国の風俗・伝統・芸術・文化・民話・文学・ゲーム・歌・ダンス・音楽・衣裳・現物または記録(スライド・テープ・写真による)。
 O——態度の解放性、組織化の技術、グループ・ダイナミックスのゲーム、チームワークとフィードバックに対する開放性。

歌詞を映写し、手話もついた。参加者約百人。

水牛ミュージックコンサート「ワルシャワ物語」九州公演

- 六月一日(月) 中津文化会館 入場者三百五十人
 六月二日(火) 熊本県産業文化会館 六百
 六月三日(水) 八代厚生年金会館 三百五十人
 六月四日(木) 人吉市民会館 七百八十人
 六月五日(金) 福岡市民会館小ホール 百五十人

水牛楽団も、プログラムの内容も、だれもきいたことのないものだったから、主催者の準備はたいへんだったろう。だが、各地とも予想を上回る入場者数であり、好評でもあった。

ポーランドというテーマの時事性もだが、このコンサートのかたちも、運動のメディアとして有効であることがわかる。それは、水牛楽団だけのものではなく、各地でコンサートにとりくんださまざまな運動体のむすび目にもなりうるものだった。

林光さんがいけなかったもので、歌手福山敦夫は司会者もかね、さらに各地の交流会でも率先して話をし、だれよりもよく飲んだ。

六月七日(日) 安保をつぶせノアジアの民衆とともに侵略と戦争を許さない6月行動日比谷野外音楽堂

音楽と演説を交互にならべたあたらしいところみ。水牛楽団は、ロックバンドや日音協のグループPUなどと出演し、もち時間わずか10分。林光さんに応援をたのんで、林さんの歌「忘れまい6・15」、「花の歌」、それにチリの歌「不屈の民」をうたう。

予定

八月二十七日(木) 水牛ミュージック・コンサート第三回「サンチャゴに歌が降る」中野文化センター 7時 前売一五〇〇円 当日一八〇〇円
 チリの「新しい歌」運動のいない手ビオレータ・バラやビクトル・ハラの歌のかずかず。後半は、民衆カンタタ「イキエケのサンタ・マリア」。ゲストは、こんなにやく座の竹田恵子さん。林光と高橋悠治の新作も。

人物朝鮮史 高銀

『むくげ通信66』'81・5・31

奥村八峰

一九七七年発行の「^註問題作家10人の自伝小説」という本の写真の高銀は「禁酒」の札の下、万年床の上で胸をはだけて、今起たばかりのような顔をしている。他の作家はタバコを吸っていたり、タイプライターに向かって格好よくおさまっているというのに。

本名は高銀泰^{コウギンテ}。一九三三年全羅北道群山市郊外の農村に生まれた。世界恐慌の嵐が朝鮮の農村を著しく傷めつけた当時、食べるにこと欠く貧乏小作暮らしだった。星が果物に見えて泣いた幼い日もあった。一九四三年、国民学校に入學した年から朝鮮語教育が日本語に変わり、昭和ヒトケタの日本人と同じように日本の皇国臣民化教育を受ける。一年生の学芸会では桃太郎の猿を演じた。日本の在郷軍人である校長の将来何になりたいかという問いに、「はい、日本の天皇陛下になります」と答えて、三カ月の間、校庭の腐ったワラ束をより分ける罰をくらった。

十二歳。日本敗戦で日本人は学校を去り、「ニセ倭奴^{ウツムシ}になっていった」高銀は悲しかった。学校からは米軍の歓迎会に出かけ、OK、乞食のような放浪生活、無声映画の弁士修業の失敗などを経て、自称オックスフォード卒の怪僧、慧超に出会う。放浪僧の暮らしを覚えた高銀は、やっと自分の人生が始まった心持ちとなり十九歳で入山。法名は一超。以後修禪と放浪の暮らしとなる。釜山の売春街で説法して袋叩きに合ったりして、衆生の救済はうまくゆかなかった。

一九五六年ソウルに出て「仏教新聞」初代主筆となる。曹溪宗団幹部職のかたわら五八年には徐廷柱の推薦を得て文壇に出る。宗団内部の革新を求めたこともあったが失敗し、このころから文壇の方へ心が移り始めて青灯紅灯の巷に出没するようになった。

二十九歳で還俗。初めて靴をはき、似合わぬ洋服をまとう。世の中が恐かった。二度目の悲恋に苦しんで自殺未遂。死にたくて済州へ向かうが、永住するつもりになって金剛高等学校を創立。校長兼教師として貧しい子供の教育を始めるが、教育より酒に溺れるありさまで、三年後、ソウルにもどった。

一九六七年三十四歳。熱烈な恋愛の揚句、自責の念のあまりまたも睡眠薬自殺をはかるが果たせず、これをもって泥沼のような生の悩みに沈んでいた高銀の中に一つの転期がくる。「ぼくは今後絶対自殺はしないと誓った。そして彼女を忘れた。罪の意識は少しずつ民族史と民族に対する愛へと拡大され深化して、西欧象徴主義とぼく自身の虚無主義とを押し始めた」

七〇年には人間回復についての思想の実践として、李浩哲ら拘束された仲間の釈放運動を展開する。詩も変わり始める。七四年には白楽晴・李文求・朴泰洵らと自由実践文人協議会を結成して代表幹

ハローを覚えてガムをもらう。初めて見る西洋人は皆同じ顔に見えるた。

中学に一番で合格するが、虚弱で内向的な高銀は体操と教練を休んでばかりいた。絵は得意で、また癩病の詩人韓何雲にあこがれたこともあった。当時、南朝鮮単独選挙反対運動による同盟休校があったのを幸いによく学校を休んだ。農作業は好きであった。

一九五〇年十七歳。朝鮮戦争勃発。六月から九月まで共和国人民軍の統治下にあった。昼は詩に心酔し、農作業をして、夜は徴用で群山飛行場で働いた。惨たんたる青春が始まる。警察が人民委員会の人を殺すと、今度は警察の家族が人民委に虐殺され、その遺族がまた人民委の残党を惨殺する……その遺体を片付けた高銀の体には屍臭がしみついていつまでもとれなかったという。こういう蛮行を見てしまった高銀は半気狂いのようにになり、幾度も家出を繰返す。米軍部隊の検数員として港で働くうちに「ヤンキー嫌い」と厭世癖がひどくなり自殺をはかるが、日本人に助けられて未遂。中学教師

事となり、作家の歴史的・社会的責任を痛感した。めざましい変身であるが翌年はしばらく筆を休め、李文求の計算によれば焼酎千本をあげた。その後禁酒したという……

七七年春夏は「大統領緊急措置違反で特別な所で」過ごしている。七八年の「民族文学と民衆」という講演の中で高銀は「民族文学は文学とともに民衆と民族の現実をたいする絶え間ない行動の同心円に寄与しなければならぬ。ある意味では、いままでわれわれは、民衆がわれわれから疎外されているのではなく、われわれが民衆から疎外された地帯で、われわれ自身だけの文芸部落社会を形成していたようである」と語った。人間であることをやめたくてやめられなかった高銀、一度は僧になりながら還俗した高銀はここで再び文学者のありかたを否定的に見つめ、新しく発見しなおし、生まれ変わる方向を見出そうとしている。

八〇年五月、彼は「金大中等内乱陰謀事件」で逮捕されて現在は西大門刑務所にいる。「文学者とは、覚醒した、開かれた民衆の創造的衝動をひきあげる者たちである」と言った高銀、その人の詩を、額縁に入れた絵を眺めるように読むことはできない。今日、日本で暮らしている私たち一人一人にも、高銀の詩はまっすぐ語りかけてくる。「阿弥陀さま/私は西方浄土に行こうとは思いません/死んでも死んでも/この国に留まっていようと思いません」

「むくげ通信」はむくげの会発行。連絡先神戸市灘区山田町3-1-1 神戸学生青年センター内

半月

作詞作曲 尹克栄

(♩=50)

푸른 하늘은 맑고 푸른 물결은 잔잔하네
 푸른 하늘은 맑고 푸른 물결은 잔잔하네
 푸른 하늘은 맑고 푸른 물결은 잔잔하네
 푸른 하늘은 맑고 푸른 물결은 잔잔하네

대도아반니
 대도아반니
 대도아반니
 대도아반니

이건 가생기 별도 잘도 간다 서쪽을 찾아라
 이건 가생기 별도 잘도 간다 서쪽을 찾아라
 이건 가생기 별도 잘도 간다 서쪽을 찾아라
 이건 가생기 별도 잘도 간다 서쪽을 찾아라

流れ去つた悲哀(五)

過ぎし時代の歌謡

高銀 (タカウヅ) 金慶植訳 (キムギョウシツ)

涙ぬれし豆満江

一、豆満江 青き流れに 櫓こぐ船頭さん
 すぎし 古えに わが恋人乗せ
 去りし その船は 何処へいつたのやら
 いとしのあなたよ いとしのあなた
 いつまた かえる

二、江の水も 月夜になれば すすり泣く
 恋人に去られし人は ためいきばかり
 しのぶ心に むせぶ切ない心

三、恋人去りし 江辺に もみじ咲き
 涙ぐんでる 江辺に 夜鳴き鳥鳴けば
 去りしあの人 恋しくなるの

一、두만강 푸른물에 노 젓는 배사공
 흘러간 그 옛날에 내님을 실고
 떠나간 그 배는 어디로 갔소
 그리운 내 님이여 그리운 내 님이여
 언제나 오려나

二、강물도 달밤이면 목메어 우는데
 님 잃은 이 사람도 한숨을 지니
 추억에 목메인 애담은 하소

三、임 가신 강언덕에 단풍이 들고
 눈물진 강언덕에 밤새가 울면
 떠나간 그 님이 보고 싶구나

許せよ、私がコレラ菌になって、あの世よりも遠い豆満江会堂、
 南陽の姉の身体のなかに入っついでいっしょに死んで、この国の土にな

ることを願う。このような希望が、民族悔恨の国境を流れる豆満江を忘れられなくしている。あなたたちよ、あなたたちの娘や息子に、豆満江を指して豆満江の話をつつまでも聞かしてやっておくれ。「ああ、無事に渡ったのだろうか、この深夜に夫は果して豆満江を無事に渡ったのだろうか……夜通し心配している若妻……ゴーツノと燃えあがる漁油燈をみつめる。北国の冬の夜は深まりゆくが」と金東煥の「国境の夜」は歌い出す。

古代の沃沮、中世の女真、九城の築造、近世の侵略がありなす関北史は、しばらくして民族移動の豆満江からその指呼間の韓国と満州に、この国の魂を埋めている。

李朝後期の構造的矛盾による移農現象と、一九一〇年以後の日帝の組織的収奪によって徐々に進んでいった韓民族の分散は、政治、経済、社会、文化的な面からみると、民族の「根が抜かれ」ることを現実的にみせてくれた現象であると金玄の「韓国文学史」は解説する。そして満州移民、百万を上まわる民族移動は、少数の亡命客、独立軍を除くと、ほとんどが生業の地盤を失った労働者と農民であった。

こんなにも多くの人たちが豆満江を渡っていった。日本の羅南師団国境守備隊の銃声で、凍てついた豆満江に倒れた亡命者、密輸業者の屍体、そして解氷期の氷片の上にただよう白頭山の蛇の死体、独立軍の屍体こそは、豆満江が表現する暗黒時代の風物であった。

豆満江の水は青い時がない。筏とともに流れるその江の水は、韓国国境の荒涼たる玄武岩地帯を激流となって流れているために黒い濁流となる。白頭山東南側の大燕脂峰、無頭山北側からはじまるこ

業者だったのかわからない。しかしこの民族が受けている痛みのひとつであることにはまちがいない。そこで流浪の作曲家は即興の曲をつくる。そして一節の歌詞をのせる。豆満江は青くなくとも、ダニュープ河をうたつたそのように、青いといわなければならぬ義務が、その歌詞の常套的な観念のなかにはいつていた。

この歌を幕間で、少女歌手張城月がうたつた。その大部分の青年同胞たちの反響は意外と大きかった。「その歌だけにしろ、他の歌は無用だ」といつてアンコールを何回もつづけたという。

ソウルに帰った作曲家は金貞九にうたわせた。二節、三節は金用浩が作詞した。OKレコードは一九三〇年代の全国を「涙ぬれし豆満江」でぬりつづしたものである。金貞九は芸術家と芸能人の産地である元山の生れである。彼の兄は先天的に楽才があつた篤学の音楽家金龍煥である。元山廣石洞の家ではバイオリンの音が絶えたとがなないと、近所に住んでいた李仲燮（画家）は言っている。

歌手はそのような兄の影響を受け、ひとつの時代の歪ましくも哀しい美声で、この国の女たちの胸を独占した。そしてこの国の酒場の男たちには、かすかな排他感情のかわりに大陸の気概とうっ憤、悔恨を植えたのである。

「この歌を、だれもが永遠にうたうよう願う」「歌は多いが、この歌だけをうたいたいづけて死んでいきたい」と、老いた金貞九は若い時代の金貞九の意気を支えている。

多くの歌のそのように、この歌もやはり「恋人」をうたつていく。「いとしのあなたよ いとしのあなた いつまた かえる」のくりかえしが、この曲の主題である。

の江は、会寧、茂山付近では花崗岩地帯へと流れて、狭い水害の多い平野につながる。

この江が国を失った時代に食糧と土を求めて旅立った人たちの悲しみと苦難を記念し、解放以後の民族エクソジスの大帰還を証言しているといえよう。

豆満江を知らない人は、この国の人ではない。だから豆満江が経験した満洲移民の生を知らなければ、この国の生の深さを知らないことになる。

このような豆満江をうたいあげるといことは、金貞九にだけまかせられるわけにはいかない。「役所では出てこいよと/あの空には星の多いこと/あの江辺には石の多いこと/この家に言葉の多いこと」という関北婦謡や「今夜はどれぐらい更けたの/北斗七星よ わかれゆく、エー」という俗謡からみると、豆満江流域の自然と歴史が、いかにこの人々を試練のなかで生活させていたかがわかる。それに、国境を越えていく悲劇がおおいかぶさってしまったのである。ここで「豆満江の青い流れに 櫓をこぐ船頭さん……」の歌謡が、豆満江の歴史があるかぎり、不滅の哀歌としてうたわれるようになる。一九三五年の夏、芸苑座音楽部の作曲家李時雨は、間島のある旅館に泊つた。

そこで、ある夜となりの部屋で若い女性がひとり泣いていた。そして李時雨はその女の身の上を知るようになる。夫が国境守備隊の日本憲兵に連行されてから、何年たつても帰らないというのだ。間島にいるという風のうわさで間島に渡ってきたのだが、そのときはすでに夫は銃殺されたあとだった。夫は独立闘士だったのか、密輸

このような歌の読み方のひとつは「情」「愛」を忠誠、「あなた」を民族とみるとき、それは「あなた」の詩人韓龍雲の「あなた」の概念を民族、国家、衆生と理解する解釈のしかたと符合する。

このような解釈はかならず植民地時代であること、この国の長い受難史が介在していることにつながる。鳥の声もただの鳥の声でなく、国を失った悲しみをあらわす声であり、雷も自然現象でなく、天罰のひとつの表象概念になる。

しかし、このような解釈を使いすぎたあまり、豆満江は故郷喪失のひとつの象徴物となつたように、本来の原意を失う危険性がともなう。だから韓龍雲の「あなた」をただ愛し合つては別れた「あなた」だといふ必要が強くなつた場合、民衆は言葉の故郷を探し与えられる。

もし、この国の歴史が民族の深い意味と使命とに関係なく、もう少し幸せであつたなら、豆満江の「あなた」は、ただその江を渡つていった「あなた」にすぎない。この事実を想定したとき、詩は多くの歌の歌詞が含んでいる内容を、民族的求心点にだけ集約することができなくなる。

歌の原意、その歌の純粹な表意が歪曲されることを警戒しながら歌をうたう人、聞く人の感動に、感動の当為を探し求めさせなければならぬ。

そうだとすると、その歌で歌の意味するものとかかわりのない状況や、時代の苦悩を背負って生きていく人たちにとっては慰めになる。鳥の声が鳥の声だけに聞こえてもいいのだ。

その鳥の声の歌は、意味とは関係なく、心の傷をいやすことがで

きる。だから豆満江の「あなた」はそれがこの民族や、この民族のある一部分を指し示すものにすぎないにしても、必要な「あなた」である。

歴史は歴史絶対論ではない。

その歴史と歴史を超越した実存、そしてあらゆる歴史のなかに無記名で吸収された「無」までも包含することによって歴史の「生」となる。

一九三〇年代は民族の抵抗が終わり、日帝の植民地政策が定着する時期である。それで満洲移住者が急激にふえ、豆満江の水と鉄橋、そして渡し船などは故土を捨てる破目に陥る。そのような東満の間島が「涙ぬれし豆満江」を生み、去りゆく人の韓半島と送る人の満洲大陸でのこの歌は、彼らの移住意識を確認することができた。「憂愁のない民族は優秀な民族でない」とキルケゴールはいつている。

この言葉は豆満江をうたうこの民族の憂愁として、いかなる民族の偉大性にも比較できないほどの韓民族の偉大性を保障する。

豆満江、豆満江の哀歎、そして豆満江が残した過ぎし時代の民族的霊感の夜は、それをうたうことともいつもこの民族のところにいる。豆満江の歌は豆満江にほかならない。

編集後記

今年の水牛楽団が隔月にコンサートをすることで、「水牛通信」も、楽団機関誌とおもわれる位、歌や音楽のことをのせています。奇数月にはほっとする読者もいることでしょうか。

楽団といっしょにあちこちについて、さまざまな人やグループとであうと、東京から見たす日本は、ほんの表面だけだな、という気がしてきます。もっと深いところで、ゆっくりうごいているものがあります。第三世界に足場をおいて、世界をうごかすことをかんがえるなら、おなじように、日本のなかでも全体がみえる場所がいくつかあって、それをつないだところに、いまある運動のかたちとちがうものをつくれるかもしれない。

楽団は、流れの底をさぐるゾンデの役をするでしょう。アジアの歌や、ワルシヤワヤカタルーニヤのように、もっと遠い土地の音楽、かけはなれたものが、身近に沈んでいるものをひきあげることができる。自前のメディアの必要から「水牛通信」は維持しているとすれば、水牛楽団は、「水牛通信」がさまざまな運動の底にあるものをひきだすための、自前のメディアのひとつにあたるでしょう。

購読の御案内

*本誌は書店にはおきません。毎号確実に入手されるためには編集部あて予約購読の申し込みをしてください。発刊と同時に直送します。

*申し込みと送金は郵便振替(口座名 水牛編集委員会、口座番号東京四一九一七九二)または現金書留でお願いします。住所、氏名、電話番号、何号からということをお知らせください。

*購読料は送料とも一年分三〇〇〇円、半年分一八〇〇円です。

水牛通信

第三巻第七号

一九八一年七月十日発行

定価 二〇〇円

発行人 堀田正彦

発行所 水牛編集委員会

〒154東京都世田谷区新町2-15-3

八巻方

電話〇三(四二五) 九六五八

振替口座東京四一九七九二

印刷所 株式会社ライププリントショップ